

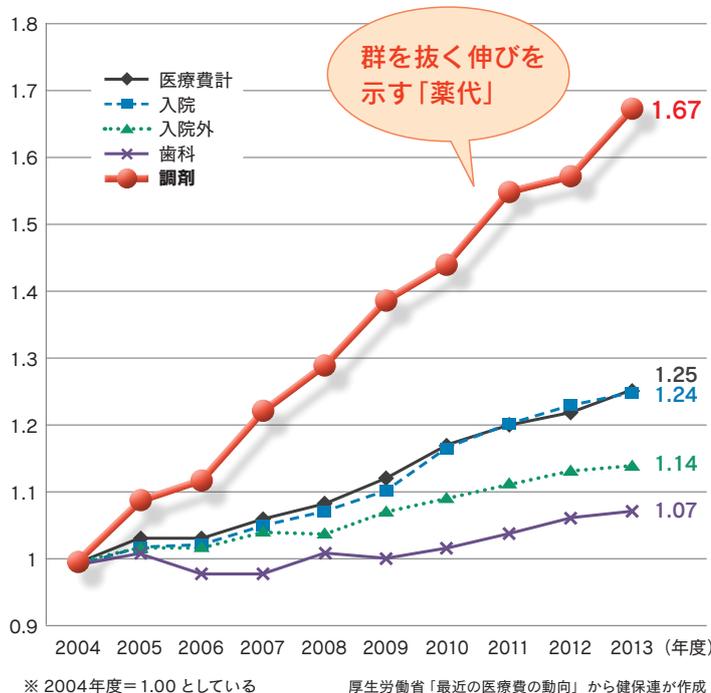


# 正しく知っていますか？ 「クスリ」のこと

～ジェネリックやセルフメディケーションの普及が一層推進されます～

医療費、とりわけ調剤医療費の削減に向け、政府と厚生労働省は、医薬品に関する新たな環境整備を急ピッチで進めようとしています。今年6月30日に政府が閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2015」（いわゆる骨太方針2015）の中でも、これらに関する施策の方向性が示されています。ここでは、その内容を見ていくとともに、医薬品を上手に使うための基礎知識など、知っておきたい情報をお伝えします。

グラフ① 全国の調剤医療費の推移



## 薬にかかると医療費が急増

高齢化の進展に伴い、医療費の伸びに歯止めがかからない状況が近年続いています。その中身をみると、医師の処方による薬代（調剤医療費）が著しい伸びを見せていることがわかります（グラフ①）。高額な薬剤の開発等が要因といわれていますが、欧米主要国での数量シェアが70～90%といわれるジェネリック医薬品（後発医薬品）の普及が遅れていることもその一因です。現在、その数量シェアは伸びつつありますが、まだまだ低い状況といえます（グラフ②）。

また、このように薬代が増え続けている一方で、昨今、残薬の問題が指摘されることも多く、医療費のムダを生む要因となっています（グラフ③）。特に、高齢者ののみ忘れ等による残薬代は、年間約500億円にのぼるとの推計もあります。

## 市販薬を上手に活用してセルフメディケーション

セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な体の不調は自分で手当てをする」とこと、WHO（世界保健機関）では定義しています。具体的には、①病気や薬に対する正しい知識を身につける、②定期的に健診を受けて健康状態を正しく把握し、健康管理に努める、③ OTC 医薬品等を上手に活用する、などが実践のポイントとして挙げられます。

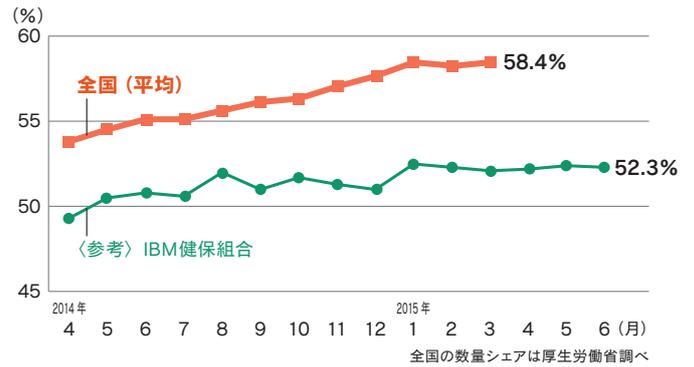
ただし、OTC 医薬品を使うときは、薬剤師に自分の症状や体質をよく相談し、用法・用量を守る、体調の変化に注意し、気になることがあれば医師または薬剤師に相談することが大切です。

★詳しくは日本 OTC 医薬品協会のホームページなどへ

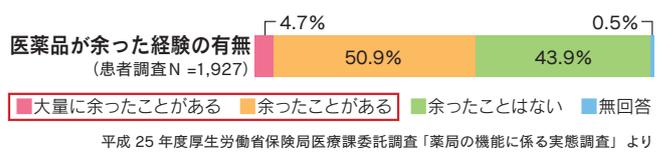
IBM 健保組合では、「調剤レセプトの直接審査・支払」制度を実施しており、この制度に参加している「レセネット加盟薬局」で処方薬をもらえば、健保組合のコスト削減につながります。ぜひ、レセネット加盟薬局をご利用ください。



グラフ② ジェネリック医薬品数量シェアの最近の月別推移



グラフ③ 6割近い人が残薬の経験あり



## 骨太方針2015に示された “クスリ改革”

このような状況を踏まえ、骨太方針2015では、医薬品に関連した改革として、大きく分けて次のような柱を掲げています。

### 1 ジェネリック医薬品の数量シェア目標の加速化

従来、2017年度末に60%以上とする目標を掲げていましたが、これを2017年央に70%以上に、そして2018年度から2020年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上とする目標に改め、ジェネリック医薬品の普及推進を加速化させることにしています。

### 2 セルフメディケーションの推進

市販薬（OTC医薬品）を正しく活用しながら、個人による自発的な健康管理への取組みを促そうという

ものです。また、セルフメディケーションを推進すると同時に公的保険の役割という観点から、市販品類似薬について保険給付の対象外とすることも検討されることになっています。

### 3 かかりつけ薬剤師・薬局の推進

大量の残薬の問題を解消するため、かかりつけ医のような薬局を持つことで薬剤師による効果的な投薬・残薬管理を行うことにしています。そのため厚生労働省は、一定の要件を満たした薬局を「健康サポート薬局」として、かかりつけ薬剤師による服薬管理、薬に関する相談のほか、健康相談等も行うなど、地域の健康づくりを支援していく新たな仕組みを作ることになっています。

今後、これらの実現のため、2016年度に実施される診療報酬（調剤報酬）の改定に向けた作業に入り、具体的な施策が示されることとなります。

\*1 Over The Counterの略で、カウンター越しに薬を販売することからこのように呼ばれる。

\*2 厚生労働省「健康情報拠点薬局（仮称）のあり方に関する検討会」がとりまとめた報告書「健康サポート薬局のあり方について」（2015年9月24日）より

### 骨太方針にも盛り込まれた健保連の提案

健康保険組合連合会（健保連）は、市販品類似薬の保険給付範囲の見直しやスイッチOTC化（II医療用医薬品から一般用医薬品への移行）の促進等を提案しています。具体的には、第一世代の湿布薬については、同様の市販品が普及しており、ドイツやイギリスでも保険適用の範囲に含まれていないことから、保険給付から除外するよう主張。また、現在スイッチ可能とされている成分をOTC医薬品に移行した場合、日本全体で約1500億円の医療費削減効果が見込めるとしています。

\* 炎症の初期に皮膚の温熱・冷却を主目的に用いられる。

## 知っておきたい クスリの基礎知識

### 医療用医薬品と一般用医薬品

医薬品には、医師の処方せんに基づいて使用される「医療用医薬品」（処方薬）、薬局等で市販されている「一般用医薬品」、「要指導医薬品\*」（市販薬）があります。

使い方によっては、医薬品の十分な効能・効果が得られないばかりか副作用のリスクもあるため、薬剤師など

の専門家に相談したうえで適正に使うことが大切です。

\*市販薬のうち、「医療用医薬品」から移行（スイッチ）したばかりで、使用実績が少なく、一般用医薬品としてのリスクが確定していないもの（＝「スイッチ直後品目」と「劇薬」）がその対象となる。

### 処方薬はジェネリック医薬品を選びましょう

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、先発医薬品の特許が切れた後に販売される、同じ有効成分を使った薬で、効能・効果は基本的に先発医薬品と変わりません。開発コストが低くて済むため、先発医薬品よりも価格の

安いものがほとんどです。

処方せんの「変更不可」欄に✓や×がなければジェネリックを選択できるので、薬局の窓口で「ジェネリックをお願いします」と伝えましょう。